第 2017-17 号

恵みと真理のニュース

2017 年 4 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

私の生きる理由と喜びになる主、救われた感激と幸せが充満になって長い歳月相変わらず主の事に力を尽くす恵みを与えてくださった主に感謝します

子供の頃、夜明けの事に聞こえる教会の鐘の音が好きでした。いくら疲れても起きて鐘の音が何回なるのか数えました。しかし、周りに伝道者がなくて福音を聴かなくてイエス様がどなたなのか教会が何をするのか知らないまま、成長するまで無意味な人生を送りました。結婚して子供を産んでからはじめにイエス様を知るようになりました。神様が伝道者を送ってくださり、聖霊に導かれて舅姑と子供達まで7つの家族が同じ日にイエス様を受け入れました。
イエス様を受け入れた後から神様に十分の一献金を捧げて主日礼拝から平日礼拝と区域礼拝まですべての礼拝に休まずに参席しました。初めは信仰生活について何も知らなかったですが、むしろ、御言葉に従順してから礼拝を捧げ主に献身するのが世から得られない楽しむと幸せになったので40年間信仰生活をするようになりました。信仰生活のはじめから毎日家で賛美が断たないよう家庭礼拝を捧げるようにと話した勧士に従順して夜明け4時30分に朝礼拝を捧げて昼食事が終わって2時と夜の食事が終わてから8時に家族皆が神様に祈りして感謝し賛美して礼拝お捧げました。 礼拝中心で生きたら人間の力では担得られない苦難の中でも祈るようにしてくださって、主が共におられ御言葉で力と慰めを下さって苦難を克服するように助けてくださいました。良いときには感謝と賛美を捧げて栄光を神様に捧げ恵みを与えてくださいました。
何年前には神様の摂理でスワン聖殿の近くに引っ越しをして朝祈り会とエステル祈り会でも参席するようになって楽しい心で神様を礼拝し教会と聖徒達のため、休まずに主の事に力を尽くす環境と健康を願い祈っています。
1979年、初めて村で私の家族がイエス様を信じ始めました。その時はその地域が私たちの教会の一つの区域になるとは想像もできませんでした。その当時、私の家庭、メギョ同の家庭、ワォンチョンの家庭このように三つの家庭が集まって区域礼拝を捧げました。メギョ同とワォンチョンで住んでいた区域長は神様に用いられてブチョンとデグに教会を開拓しました。
私は教区長と共に熱心に伝道してました。初めは慣れてない所に行って誰に福音を伝えたらいいのかわからなかったです。主は私に少しも暇も与えられなかったです。多くの働きをするように健康と新しい力といつも聖霊に満たされて喜びで使命を担えるようにしてくださいました。神様の恵みの中でカソンとバランを超えて西海の近くのチョアンとアンジュンまで広げてリバイバルをしました。その時、伝道した土地に恵みと真理教会の新しい聖殿が建てられました。
神様は熱心に主の事に力を尽くす私にたくさんの福を与えてくださいました。家族の福音化をしてくださり、特に3人の子供の中で息子は宣教師として長女は献身者で選んでくださいました。よく考えると私が住んでいた村の聖徒の中で10人が超える人が神様の福音使役者として選ばれました。
映画のように私の過ぎ去った過去が美しい思い出になります。伝道をして主の事に力を尽くした頃、日々が真に楽しかったです。主から溢れるほど恵みを受けて熱情的に働いて時間を浪費しなくて後悔しない人生を生きることが出来ました。救われる喜びと感激がなくならなくて神様に対する信仰と初めの愛を忘れなく主の働き人として導いてくださった主に感謝します。今まで神様から受けた恵みと祈りに答えられた体験があまりにも多くて一つ一つ数えきれないほどです。
何年前でした。急に眼になにか飛んでいるようで眼科に行きました。 緑内障と所見書を書いて、ソウル大学病院に行って精密検査を受けるように言われました。 病院に予約者が多く、6ヵ月以上を待たなければならないと言うから3ヶ月を待ち、ブンダンにある大学病院に行って検診を受けました。 病院では片目の視神経が死んでおり、機能ができない状態だとしました。 3ヵ月後、6ヵ月後、また1年後と2年後、続けて病院で検査を受けました。ところが、2年後、医師から言うのに"おかしいですね。生まれつきですかね。続けて検査を受けてももうこれ以上、悪くならないです。メガネをかけないほど視力が良くて片目の 白内障も始まりの状態そのままですね。と言われました。今私の年七十歳半ばなのにも視力が片方は1.2、他方は0.7です。 聖書の小さな字を老眼鏡をかけなくてもよく読むのでこれも神様の恵みなので神に感謝します。
1984年に首区域長の職分を受けて今まで区域と教会を仕えて34年目になりました。今は年を取って以前のように遠く伝道もできなくても相変わらず福音を伝えまた教会と教区の聖徒達のため熱心に祈っています。今まで主の働き人として神様が用いられるのが恵みとなり感謝することです。“　ハレルヤ。わたしの魂よ、主を賛美せよ。命のある限り、わたしは主を賛美し／長らえる限り／わたしの神にほめ歌をうたおう。君侯に依り頼んではならない。人間には救う力はない。霊が人間を去れば／人間は自分の属する土に帰り／その日、彼の思いも滅びる。いかに幸いなことか／ヤコブの神を助けと頼み／主なるその神を待ち望む人。”（詩編146：1～5）
主が私を天国に呼ばれる日まで残った人生も相変わらず主だけを愛し、主だけを委ね、主だけを賛美します。ハレルヤ！

［信仰コラム］　私はイエス様の昇天と再臨を信じます

"天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり、かしこより来りて、生ける者と死ねる者とを審きたまわん。"（使徒信条）

使徒信条の"天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり、かしこより来りて、生ける者と死ねる者とを審きたまわん"という部分を調べてみます。
第一の部分は、"天に昇り"です。
復活なさったイエス様は 40 日間多様な場所と様々な人々に現れて、最後はオリブ山の上で約 500 の群れが見ている中で天に昇り、雲がイエス様を遮って見えないようになりました。イエス様が昇った天は神様の座がある所です。人々が受ける福の中で最高の福が天国に入る福であります。天国は我が主イエス様が治められる所です。ヨハネの黙示録 21 章と 22 章には天国にあることとないことが対照的に明示されています。天国には天軍天使だけがいてサタンと悪い魂はいません。正しくなった者だけいて罪人はいません。真実だけあって偽りはありません。とこしえの命だけあって死亡がありません。喜びだけあって哀痛と涙はありません。豊かだけあって貧乏と欠乏はありません。健康だけあって疾病はありません。愛だけあって憎みはありません。イエス様は聖徒達のためにこのような所を予備なさるために天に昇りました。
第二の部分は、"全能の父なる神の右に座したまえり"です。
イエス様の復活昇天は彼の贖いが完遂されたことを確証するのです。言い違って、イエス様を信じる者が正しくなったことを意味します。イエスキリストが神様の右の座に座られたことは彼の絶対主権を表しています。イエス様が神様の右の座に座られたということはイエスキリストが私達のために求めてくださることまで含めています。"天に昇り、全能の父なる神の右に座したイエス様を私は信じます。"このような告白をする人はキリストイエスの中で正しくなりました。そして神様の右の座で私達のために求めてくださるイエス様を考えて大胆に生活していくことができます。
第三の部分は、"かしこより来りて、生ける者と死ねる者とを審きたまわん"です。
イエス様は人々を審判なさるために再びお越しになります。イエス様が行われる審判を三種類に分けることができます。一、聖徒達が受ける審判があります。これを功力審判あるいは賞給審判だと言います。二、イエスキリストを信じない者達が受ける審判があります。地獄刑罰に処する審判です。三、サタンのその使者が受ける審判があります。千年王国の期間には底無し地獄に囲まれてその後には、火の池に投げ込まれます。
"イエス様はいつ再びお越しになりますか？"という質問に対する答えが聖書にあります。その日と時刻については誰も知らないとしました。しかし、主の再臨が近づいたということを知らせる兆しが啓示されています。自然界に現れる兆し、国際社会に現れる兆し、社会的に現れる兆しです。そして宗教界とキリスト教会に現れる兆しがあります。宗教一致と統合運動、変質された神学、異端の氾濫、大々的な背理行為等です。また、知識増大と交通通信の発達が急速になり、全ての民族と全世界に福音が述べ伝えられる兆しです。従って、聖徒達はイエス様の再臨に備えて生活すべきです。しかし、一方では時限終末論者の惑いを注意しなければなりません。イエス様の再臨を対備する最も基本的な姿勢は礼拝と伝道と奉仕に励むことであります。そして福音を歪曲させる者達を断固として排斥すべきです。
イエス様が再臨なさる時、既に肉親の死を経験した聖徒の魂をイエス様が連れてお越しになるでしょう。その魂が復活した体を被るようになります。当時にこの世で生きている聖徒達は瞬時に変化されるでしょう。
"かしこより"という言葉は"神様の右の座で"という意味です。"天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり、かしこより来りて、生ける者と死ねる者とを審きにおいでになるイエスキリスト"を信じる人は誠に幸いな人であります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

心が清い人

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人々は自分の外見を清潔で美しくするのに時間とお金を惜しまないです。 しかしイエス様がおっしゃるのを “心の清い人たちは、さいわいである、彼らは神を見るであろう。” と言いました。 概して人々は心を清潔にさせることを外見に気を使うこと位しないです。 人々が先ずに見ることは外見であって心ではないからです。 しかし神様はおっしゃるのを “「顔かたちや身のたけを見てはならない。わたしはすでにその人を捨てた。わたしが見るところは人とは異なる。人は外の顔かたちを見、主は心を見る」。”（サムエル記上，16:7）しました。だから神様の愛と認定を受けようとすれば心を清潔にさせるのにもっと比重を置いて努力しなければならないでしょう。 今日は心を清潔にさせる方法が何であり、心が清い人に許諾されたさいわいが何やらよく見ます。

第一、人の心を汚すのが何やらよく見ます。

人の心を汚すことは罪です。 罪と言えば法律を破るとか道徳的な規範を破ったことを思うようになります。 しかし聖書でおっしゃる罪はそういうものなどが一面含まれるが原則的には神様との関係と関わっています。 神様が人生に下さった生の目的と目標をはずれたことを罪と呼びます。 人は神様の光栄のために生きるように創造を受けました。 神様だけ仕えるように創造を受けました。 事毎に神様が優先で一番にならなければなりません。 生の中心に神様を面倒を見なければなりません。
アダムとエバが善悪を知る木の実を取って食べるによって罪人になりました。 善悪を知る木の実を食べたことがどうして罪になりますか? 善悪を知る木の実の中に悪い成分が入っているからですか? 善悪を知る木の実を盗んで食べたからですか? いいえ。 それを食べないと言う神様の命令が与えられていたからです。 “主なる神はその人に命じて言われた、「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。しかし善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きっと死ぬであろう」”（ 創世記，2:16,17)で神様が言い付けました。 蛇はエバに近付いて誘惑するのを “「わたしたちは園の木の実を食べることは許されていますが、 ただ園の中央にある木の実については、これを取って食べるな、これに触れるな、死んではいけないからと、神は言われました」。へびは女に言った、「あなたがたは決して死ぬことはないでしょう。それを食べると、あなたがたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを、神は知っておられるのです」。” 告げました。 被造物である人間が神様と一緒になろうと思う行為が射的を外れた矢になってしまったのです。 すべてのものより神様が優先で神様が一番であると言ったら当然神様のお言葉に従順しなければなりません。 その誰の言葉も創造主の神様のお言葉より先に立たせてはいけないです。 神様のお言葉に対する不従順が罪です。 アダムが犯した罪はその子孫にまで伸ばすようになりました。
そしてすべての人は生まれの時からその心が汚くなっています。 聖書に記録されるのを “心はよろずの物よりも偽るもので、はなはだしく悪に染まっている。だれがこれを、よく知ることができようか。”（エレミヤ書，17:9)と言いました。
旧約聖書では不正がないことを清潔と言います。旧約の規例では混合したことは不正なことで見做します。 レビ記 19 章 19 節に見るとこんなに記録されています。 “あなたがたはわたしの定めを守らなければならない。あなたの家畜に異なった種をかけてはならない。あなたの畑に二種の種をまいてはならない。二種の糸の混ぜ織りの衣服を身につけてはならない。” としました。 この規例には信仰的な意味があります。 神様を向けて二つの心を抱かないと言う意味です。 コリント人への第二の手紙 6 章には “不信者と、つり合わないくびきを共にするな。義と不義となんの係わりがあるか。光とやみとなんの交わりがあるか。キリストとベリアルとなんの調和があるか。信仰と不信仰となんの関係があるか。神の宮と偶像となんの一致があるか。わたしたちは、生ける神の宮である。神がこう仰せになっている、「わたしは彼らの間に住み、かつ出入りをするであろう。そして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるであろう」。”（コリント人への第二の手紙 6:14～16）としました。 神様外に他の神様を仕えることと神様と偶像を兼ねて仕えることは魂を破滅させる醜い罪です。

第二、心を清潔にさせる方法が何やらよく見ます。

心という用語を聖書では霊(spirit)、魂(soul)、精神、良心というさまざまな意味で使っています。 だから心が清潔であるということは生まれかわった魂の状態を意味するうえ良心や性分または考えの状態を意味したりします。 魂を腐敗させて汚す罪は人間のどんな努力でも清潔にできないです。 教育や修養や善行がすべて無駄です。 魂が清潔になる方法は人が考案し出すことができないです。 その解決策を神様がくださいました。 イエス様を信じて迎接するのがその唯一な解決策になります。聖書にその道が明らかに啓示されています。 ペテロの第一の手紙 1 章 18 節、19 節には “あなたがたのよく知っているとおり、あなたがたが先祖伝来の空疎な生活からあがない出されたのは、銀や金のような朽ちる物によったのではなく、きずも、しみもない小羊のようなキリストの尊い血によったのである。” と言いました。 神様のイエス様がこの世の中に人でいらっしゃって私たちのすべての罪を担当して十字架に釘付けられる事ができなくたまらなかったです。しかし三日ぶりに復活しました。 誰でもイエス様を迎接すればイエス様が流したその貴重な血がその魂を清潔にさせてくれます。
魂が清潔になる道はイエス様を信じるしかないです。 しかしイエス様を信じて罪の赦し洗いを受けて義のあるようになった者でもこの世を生きながら神様のお言葉どおり行うことができない時が多いです。 そんなにすれば私たちの魂がまた汚くなることでしょうか? 魂が汚くならないです。 ただ 彼の良心、性分、心が汚れるのです。 心が汚れることを予防するとか対処する方法があります。 物質を清潔にさせるためには水と火を使います。 私たちの心を洗う水は聖書のお言葉です。 詩編には “若い人はどうしておのが道を清く保つことができるでしょうか。み言葉にしたがって、それを守るよりほかにありません。”（詩篇，119:9）としました。
イエスキリストのお言葉は私たちの心を浄化する能力があります。 水が清潔にさせるように火は汚いことを燃えてなくしてくれます。
火をパスすることができることは火として清潔にできます。 聖書に聖霊の現れるのを火で表現しています。 私たちが聖霊で充満すれば不義して悪い考えが消滅します。
神様が私たちの心が清潔できるように下さった対策はこのように三種類です。 心を清潔にさせるためには神様が立ててくださった対策を受け入れなければなりません。 皆さんはイエス様の血として魂を清潔にしてください。 魂が清潔になった方々はお言葉の充満、聖霊の充満することで常に心を清潔になさってください。

第三、心の清い人が享受するようになるさいわいに関してよく見ます。

“心の清い人たちは、さいわいである、彼らは神を見るであろう。” としました。 人類の先祖アダムとエバがエデン園に生きながら神様をお目にかかる間にはすごく幸せでした。 しかし彼らが罪を犯した後には以前のように神様を見られなくなりました。 アダムの子孫はその心が罪によって腐敗された理油で神様を見られなくなりました。 そして無神論者になって偶像の崇拝者になってしまいました。 罪悪は神様の顔をふさがって私たちが神様を見られないようになります。
心の清い人は多くの方面で神様を見るようになります。 イエス様の血とお言葉と聖霊で心が清潔になった人は神様が創った万物で神様を見るようになります。 使徒パウロは “神の見えない性質、すなわち、神の永遠の力と神性とは、天地創造このかた、被造物において知られていて、明らかに認められるからである。したがって、彼らには弁解の余地がない。”（ローマ人への手紙 1:20)と言いました。
イエス様の血で魂が罪の洗いを受けて清潔になった人は聖書から神様を見るようになります。清潔な心で聖書を広げて見れば創世記からヨハネの黙示録までどこでも神様の音声をきくようになって神様の愛の手長さ現われて働くことを見るようになります。 心の清い人は教会で礼拝を差し上げながら神様を見るようになります。讃尿を呼んで祈って、説教をききながら神様の臨みを感じます。 心の清い人はすべての事件の中で神様を見るようになります。 戦争と飢饉と地震が起こることを通じて聖書の預言書に記録されたお言葉を成す神様の手助けを見るようになります。 心の清い人は彼の日常生活で神様の臨みを感じながら生きて行きます。 イエス様は天の御佐にいらっしゃるが聖霊の交通なさることで私たちと一緒にいらっしゃいます。心の清い人はこんな事実を理論ではなく実在的な体験で言えます。
私たちがこの世の中に生きる間には主神様の栄えるすがたにいらっしゃるそのまま見られないです。 使徒ヨハネはパッモ島で光栄の神様を見てから倒れて死亡者のようになりました。これが私たちの肉体が持っている限界です。将来に私たちが肉体の帳幕を脱いで復活して神様の前に立つ時には彼がいらっしゃるそのままお会いできます。 心の清い人は神様が愛と権能の手助けで働くことを見て分かりながら経験するようになります。

魂が清潔になった聖徒の皆さんは神様のお言葉と聖霊忠満をもって心がいつも清潔になるように力をつくしてください。 そしてこの世の中に生きるうちに神様がともになさって助ける手助けを多くの形で見るさいわいを享受してから、将来に天国へ行って神様にいらっしゃるそのまま見るようになるさいわいを享受するように願いします。